本日のプログラム

例会 第 2764 回

- 1.開会点鐘
- 2.ロータリーソング
- 3.ビジター紹介
- 5.会食
- 6.会長挨拶
- 7.幹事報告
- 8.出席報告

10.卓話:佐東丈介君

9.スマイルBOX 11.閉会点鐘

例会の予定

・5月24日(金)

卓話:伊藤伸之君

・5月31日(金) 卓話:平間章弘君

・6月7日(金)

卓話:櫻井武志君

・6月14日(金) 卓話:石倉幸久君



湯河原 ロータリークラブ 会長 石田 浩二 幹事 小倉 高代

第 2780 地区 第 9 グループ

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 湯河原町宮上 566 湯河原町温泉観光協会内

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

本日は会長が欠席で私が代読させて頂きます。

5月15日夕刻に、佐藤泰文さんが亡くなりました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

家族の方の意向で、密葬みたいなので葬儀は来月6月13日〜14日のようですが、 詳しくは追って事務局からご連絡します。

浅田さんに続いてでしたので、とても寂しく思います。

私もそうですが、みなさんも健康管理には十分気を付けてください。

さて、今月は「青少年奉仕月間」です。

ロータリーの友に、「地域にあわせた青少年奉仕のありかた」が載っていました。 みなさんはご存じかと思いますが、ロータリーには、12歳から18歳を「インターア クト」18歳から30歳までが「ローターアクト」とあります。

各クラブではこのアクトの学生を支援活動しているクラブが沢山掲載されており、将来 を担う子どもたちを支援し、地域活性化を図っていくことも大事だと思いました。 また、現代において耳を疑うのが「子どもの7人に1人が貧困」のようです。

最近では、「子ども食堂」を立ち上げて、子どもたちに食事を提供するクラブもござい

また、食事だけでなく、コミュニケーションを図り、自殺防止、不登校児童の支援など も活発にされているようです。

先日の会長幹事会でも、議題に取り上げられたのが、第 9 グループは青少年支援やア クトの支援が少なく、もう少し取り組むようにとご指導頂きました。

未来の子どもたちを支援していくのも、ロータリークラブの責務と思いますので、みな さまのご協力を宜しくお願いします。





平成31年5月17日(金)

天候 晴れ 合唱 我らの生業



国際ロータリー2018-19 RI 会長 バリー・ラシン 第 2780 地区 ガバナー 脇 洋一郎

幹事報告

監事報告 無し 連絡事項 無し

	出席報告	ゲスト	0名 ビジター 0名	会員24名
		欠席	5名(免除者3名)	前回の修正出席率 91.30%
		出席率	90.00%	前々回の修正出席率 82.61%

事前メークアップ 0名



・会員誕生日 高杉尚男会員(5/19)

・結婚記念日 櫻井武志会員(5/20)

・ご夫人誕生日 渡辺久恭会員(雅子様・5/6)

・入会記念日 深澤昌光会員(8年·H23.5.13)







卓話:佐東丈介君

正しい切り傷の応急手当まず傷を洗い、止血する

まず、傷から細菌が入って感染が生じないよう、よく洗いましょう。出血があれば、ガーゼなどで圧迫します。多くの場合、5分ほどの圧迫で出血は止まります。それでも止まらない場合や、噴き出るような出血の場合は、圧迫したまま医療機関を受診すべきです。日常生活を継続できる程度の傷であれば、他人に血液が付かないよう、傷口に当てたガーゼをテーピングや包帯でしっかり巻きます。

大抵の擦り傷は、放っておいても治りますが、思わぬ感染を起こさないため、また、できるだけきれいに傷が治るよう、 適切な傷の処置を知っておく必要があります。 乾燥させずに治す

「傷は消毒する」というのが以前の常識でした。これに対し、状況にもよりますが、現在の主流となっているのは、「傷は消毒しないで治す」という考え方です。

細菌を殺す消毒薬は、傷を治そうとしている皮膚の細胞にもダメージを与えます。細菌が増殖して感染した状態の傷であれば、消毒は必要ですが、擦り傷ができた段階では、まずは水道水で傷を洗い流すことが大切です。石けんなどでよく泡立てて洗うのも有効です。砂や小石などが傷に残ってしまうと、感染したり、傷跡に色が残ったりするので注意しましょう。

また、「傷はできるだけ乾燥させて治す」というのも、以前の常識でした。乾燥すると、傷を治す細胞も死んでしまうため、現在は、「湿潤環境で傷を治す」ことが勧められており、この方が傷跡もきれいに治ります。

ガーゼなどを傷口に当てていると、どうしても乾燥してしまいます。治りかけた際にも、ガーゼにかさぶたが貼り付いてしまい、はがすときに再び傷口が開いたり、出血したりします。傷の湿潤環境を保つために、現在は特殊な素材でできた被覆材が用いられます。被覆材は、市販もされています。

傷と言っても擦り傷、刺し傷、切り傷など様々で、深さや大きさも違います。湿潤環境にするだけでは不十分なケースもあります。広い範囲の傷や深い傷、5分以上押さえていても出血が止まらない傷、治りが悪かったり、膿(うみ)が出ていたりする場合には、早めに医療機関を受診しましょう。



